

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

岩手県 西和賀町

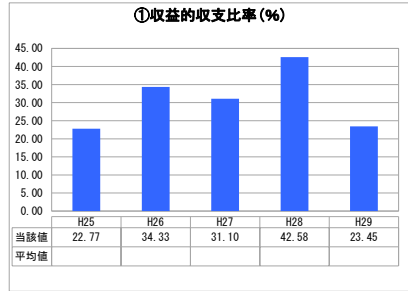
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	7.13	98.73	2,814

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,839	590.74	9.88
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
412	0.28	1,471.43

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



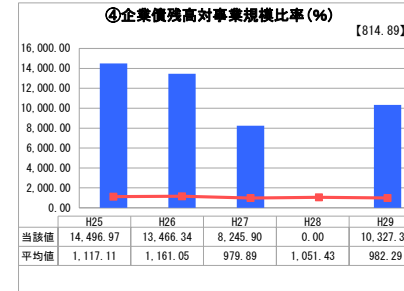
「単年度の収支」



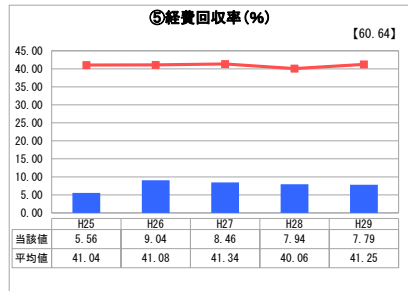
「累積欠損」



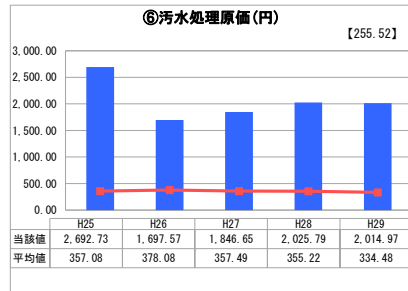
「支払能力」



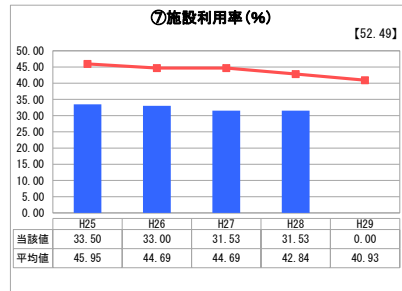
「債務残高」



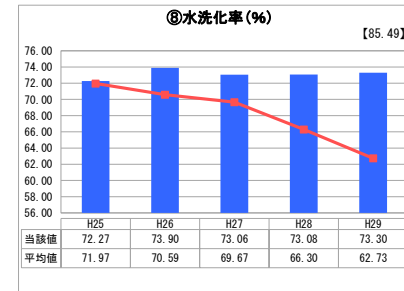
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

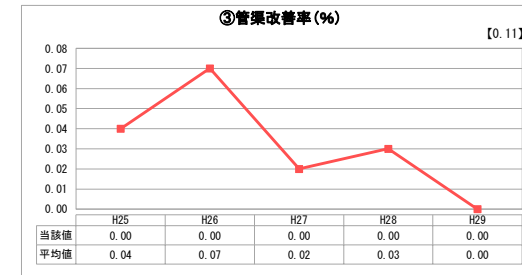
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支は昨年度は40%台となったが本年度は減少してしまつた。原因として施設利用率が低いことと修繕費等の維持管理費が増大したこと、水洗化率に関しては若干の増加になったが全体的な処理人口は減少しており、その為施設利用率が下がっている。今後は汚水処理原価に係る施設の経年劣化等による維持費の増加が見込まれる。対策としては施設維持費の計画的出資、水洗化率の向上、そして使用料の根本的な改定が必要であると考えられる。

### 2. 老朽化の状況について

本施設は稼働から15年がすぎ処理施設の老朽化が自立してきており今後も老朽化等による修繕費等が増大していくと予想される為、ストックマネジメント等により現況調査を行い頻度の高い所を優先的にそして計画的に修繕していくことで長寿命化を図りたい。

### 全体総括

現在の農業集落排水施設はH15年度から稼働し約15年経過している状況である、老朽化に関しては今後必要となるのでストックマネジメント等により調査し計画的な補修をしていく必要がある。水洗化率が此処に来て横這いになっているので今後は接続推進を積極的にいき、適切な時期に使用料金の改定を行い、経営改善を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。